

会議名 ニセコ町学校運営協議会推進委員会（平成27年度・第1回）

開催日 平成27年7月2日	会議時間	開会 午後 1時00分 閉会 午後 3時00分
会議場所 ニセコ町役場 議員控室	記録者 ニセコ中学校事務職員 三坂 宜巳	
出席委員：萬谷委員、山野委員、矢島委員、山際委員、新井委員、小中委員（代理：島教頭）、渡邊委員、田邊委員、日野浦委員、菊地委員、加藤委員 教委：淵野係長、深澤主事、三坂		

会議内容

1. 開会

2. 教育長あいさつ

ニセコ町では地域ぐるみで子どもたちの成長を育んでいこう。子どもたちの実態や課題、また自然・人材・産業、様々な教育支援を子どもたちに使っていきたい。2年間の取組でどうあるべきか知恵やアイディアを出し合い進めていきたい。

3. 委嘱状交付

机上に配布

4. 正副委員長の互選

互選により、委員長に渡邊委員（ニセコ中学校長）、副委員長に萬谷委員（ニセコ町PTA連合会長）を選出した。

5. 委員長あいさつ

昨年末に小・中一貫教育フォーラム、三鷹市の視察に行き、そこでのコミュニティ・スクールの取組の進み方に驚いた。これからの課題は何なのか、地域の特徴を活かしどのように2年間の検討を進めていくか、これからみなさんで良い教育環境を整えて行きたい。

6. 議事

(1) 講話 テーマ：コミュニティ・スクール導入に向けて

講師：北海道大学学務部長（文部科学省CSマイスター）出口 寿久先生

「地域とともにある学校づくり～コミュニティ・スクールと地方創生～」

- ・コミュニティ・スクールの仕組と現状
- ・コミュニティ・スクールの成果と課題
- ・今後の方向性 につて講話頂いた。

○週五日制が導入されて以降、土曜日の生徒児童の過ごし方が問題になっている。

子どもたちが安心して過ごせる環境をつくるためにも、学校と地域、家庭との連携が必要になってくる。

- 保護者や地域住民が学校のおよき理解者となり、学校運営に対してアイデアを提供することができれば、ニセコ町にとってさらに良い教育を進めて行く可能性が広がるのではないか。
- コミュニティ・スクールは保護者や地域住民が学校運営に参画できる仕組みであり、学校と地域を結ぶ大切なツールである。制度上、必ず行わなければならないのは、校長の決める学校運営の基本方針に対して承認を得なければならないということ。承認を得るという点で、学校評議員制度と大きな違いがある。
- コミュニティ・スクールと学校評価の取組み、学校支援地域本部事業をあわせて実施している学校が多い。これらをセットにすることで、学校運営のPDCAサイクルを確立することができる。
- 学校には毎年新しい児童・生徒・保護者が入ってくる。だからこそコミュニティ・スクールを導入した背景や仕組み、考え方を伝えていくことが重要になる。
- 学校運営協議会の委員の選出は校長が行うべき。自分の応援団を作り、子どもたちと一緒に育てていく仲間を作ることになる。
- 子どもたちは、地域住民、保護者、異なる年齢と関わる事で共に学びながら成長する。こういったことは地域の活力にも繋がる。
- 学校は地域コミュニティの核となる場。子どもたちは地域によって育てられ、地域は子どもたちによって支えられることから地域への愛着や誇りがうまれる。地域を切り拓く人材の育成が地域を支えていくことに繋がるのではないか。

(2) コミュニティ・スクール導入促進事業について

①目的

学校・家庭・地域の連携を一層強化し、町ぐるみで「地域とともにある学校づくり」を進めるために、学校運営協議会推進委員会を設置し、2年間の調査研究事業に取り組む。

②内容

推進委員会では、学校・家庭・地域の関係者が集まり、先進地視察や学習会の開催などを通し、ニセコの人材・地域性・資源などを活かしたニセコスタイルのコミュニティ・スクールについて検討を行っていく。

③本年度の開催スケジュール

資料によりスケジュールを確認。

④予算

資料により本年度の予算を確認。

7. 次回の会議開催予定について

9月上旬の先進地視察研修の日程を調整次第、次回日程調整を行う。

8. 閉会